虹

ニュースレター No.92　December 2019

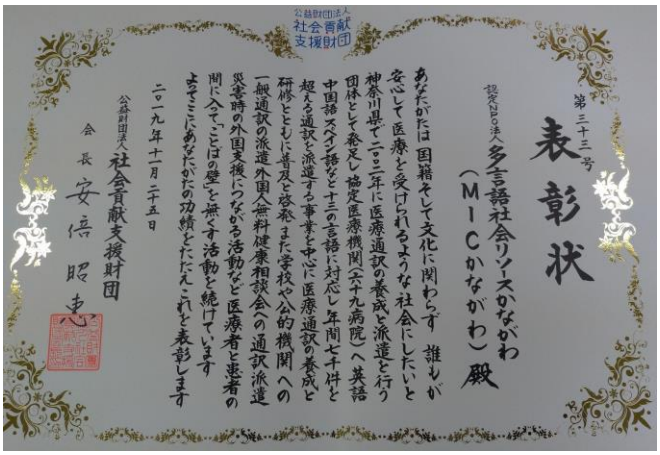
MICかながわ

特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター内
Tel：045−314-3368
Fax：045−342-7918
e-mail：mickanagawa@network.email.ne.jp
URL：http://mickanagawa.web.fc2.com/

2019年は、ご支援ご協力をいただき大変お世話になりました。2020年もどうぞよろしくお願いいたします。MICかながわのニュースレター『虹』は、2020年より発行回数が年2回、6月と12月の月末発行となります。

12月28日(土)～1月5日(日)、MICかながわ（コーディネーターブース・事務局）は年末年始休業です。1月6日(月)から通常の業務を行います。



MICかながわの活動と功績に対し公益財団法人社会貢献支援財団より表彰を受け(副賞50万円)、松野理事長（写真右）と岩元副理事長（同左）が表彰者懇談会、表彰式典に出席しました。

特集：医療通訳登録1年後フォローアップ研修

11月16日(土)10：00～11：30　　ウィリング横浜

参加者：　スペイン語　5人、英語　3人、カンボジア語　1人　計9人
（対象者　スペイン語、英語、ベトナム語、カンボジア語、ネパール語　計15人）
アドバイザー：佐藤理事・中国語通訳、内藤Co.・タイ語通訳　　進行：森田（事務局）

初めての試みとして、登録して1年経った医療通訳スタッフを対象に研修を行いました。1年経った頃というのは、「養成研修で教わったことと違う」「病院によって対応が違う」「この対応で正しかったのかどうかわからない」など、さまざまな疑問が生まれてくる時期ではないでしょうか。

神奈川県の医療通訳派遣システム事業の協定医療機関は69病院あります。病院によっての対応の違いに戸惑ったり困ってしまうのは、ベテラン通訳スタッフでも同じです。「臨機応変に対応できるようになる」には、経験を積んでいくこと。疑問が生じたときに相談したりアドバイスをもらえる場があることがその解決法といえそうです。

フォローアップ研修の前に、対象者には次のような質問を送りました。

1．1年間通訳の現場を経験して、自分の知識や技術はどのように向上しましたか。
2．心得10か条に当てはまらなかった経験、困った経験
3．MICのルールで、現場でうまく対応できなかった経験、対処方法

参加者からの感想を聞き、出た疑問や質問にアドバイザーが答えるかたちで研修が進みました。

★参加者　◆アドバイザー

1年間通訳の現場を経験して、自分の知識や技術はどのように向上しましたか。

★準備（サイトの調べ方など）が速くなった。
★医師や患者への聞き直しが自然にできるようになった。
★あらゆることを想定して準備して行っても、それに当てはまることは少なかったが、自分の語彙が増えたことは良かった。
★新聞記事などを切り抜いて、空いている時間に訳すことが習慣になった。
★医師の話にストップをかける勇気をもつことはいまだに課題。
★医療通訳を通して、医療の知識だけでなく、社会のいろいろな制度の知識が増えた。

心得10か条に当てはまらなかった経験、困った経験がありましたか。

★名前を聞かれたとき、どこまで答えるか迷う。

◆ルールで決まっているから「言えない」というと患者さんは傷つく。最近は医師も自己紹介をすることが多く、その流れで言う必要があるときは雰囲気を壊さないように苗字だけ言うようにしている。

★専門用語をそのまま訳していいのか、わかり易い言い方に置き換えていいのか、まだ自信がない。
★医師が訳さなくていいと言ったことは本当に訳さなくていいのか。訳さなくていいと言われ長い話になったとき、患者さんの不安そうな表情に戸惑った。

◆対応は経験を積み重ねるうちにできるようになる。医師、患者双方の表情を見ながら通訳が交通整理すると良い。患者さんがわからないままになってしまうのは避ける。医療者・患者・通訳が3人で会話しているような流れや雰囲気を保てると良い。

★問診票の対応は、どのようにすることが正解なのか。

◆訳しながら読み上げて、患者さんが自分で書けるところは書いてもらう。難しいようなら通訳が代わりに書き「MICかながわ通訳代筆」と記す。

★同意書への対応（サイトトランスレーション）は、「ルール上できない」と言ったら看護師と押し問答のようになってしまい、患者さんの利益を考え結局対応してしまった。

◆同意書への対応については、医療機関の窓口担当者はMICのルールをわかっているが、現場がルールをわかっていないことがあるので、院内で共有してもらいたいと思っていることのひとつ。

◆分量が多いので、医師や看護師に大事なところを読んでもらい、それを訳す。

★狭い診療室で、研修で教わったような通訳の位置を確保できず、医師や患者さんの目線が通訳に集まってしまった。
★医師→通訳→夫→患者（妻）という通訳の流れで、途中で夫から妻への通訳が止まってしまった場合、どうしたらよかったのか。

◆経験からできるようになるが、医師から夫に妻（患者）への通訳をリマインドするよう、通訳がタイミングを見計らって医師に確認するとよい。

★事前にコーディネーターから聞いていた情報と異なり、通訳だけが流れを知らず蚊帳の外のような感じを受けた。

◆病院に着いたとき最初に「こういう依頼を受けて今日来ました」と確認するようにしている。違っていたらその場で新しい情報をもらえる。

★通訳がいなくても大丈夫なのではないかと思われるケースもある。

◆通訳が必要かどうかは通訳スタッフが判断することではない。判断するのは医療機関。

★患者さんの話を通訳していたが、他の病気の薬の話、友だちのケースの相談などにおよび医師が怒ってしまった。すべて通訳してしまった自分が悪かったのだろうか。

★母親の受診（産婦人科）で、途中でついでに子ども（小児科）もという流れになった。これは、どうなるのか。

◆病院からの確認票（＝報告書）を元に、事務局が通訳スタッフに明細書を送る。その際、しっかりチェックしてほしい。親子の受診、兄弟姉妹の受診については、依頼の受付の仕方がある。（同じ受診科なら 2時間以内1件と合算するが、診療科が違ったらそれぞれ別の受付票を起票することになる）

◆困ったことがあったら、病院を出る前に窓口担当者に報告する。役割を果たして楽な気持ちで病院を出られるようにしたほうがいい。

◆自分の言動に対して、その理由を答えられるなら言ってもいいし、やってもいい。答えられないなら止めたほうがいい。自分で責任をとれないことはしないようにすること。

MIC のルールで、現場でうまく対応できなかった経験はありましたか。対処方法はどうしましたか。

★「10分前に病院の担当窓口に行き、予約時刻から通訳を開始するようにしてほしい」という事務局からのメールの意図は何だったのか。

★ある病院で、予約時刻より早く患者さんと通訳が揃ったので、窓口担当者から「通訳をスタートしてください」と言われたが、「予約時刻から始めることになっているので待ちます」と答えてしまった。

◆某病院から「5～10分前に病院の担当窓口に来てほしい。開始時刻は予約時刻とする」という申し出があった。混乱しないように病院名を特定せず医療通訳スタッフにメールを送ったが、結果的には混乱を招いてしまった。

★最近は、iPad を使ってビデオ（白内障手術、術前準備外来、胃カメラなど）を見せられることがある。これは通訳として対応していいものなのか。

◆新しいツールは今後の課題として検討する。

医療通訳の 10 か条

1. 正確な通訳が基本
2. 基本的な医学知識の習得
3. プライバシーを守る
4. 患者さんが話しやすい態度を
5. 自分の意見と患者さんの訴えを混ぜない
6. 医療に関わる様々なスタッフの役割を知り、連携をとる
7. 自分の役割を明確に
8. ひとりでかかえこまないで、コーディネーターなどに相談する
9. 外国人の使える医療制度についての知識を持つ
10. 健康に留意する

ここ数年間、私はスーパーバイザーとして各言語の新任通訳研修をサポートし、新しい仲間を迎え入れてきました。新任研修で学んだ医療通訳に必要な通訳スキル、医学基礎知識と MIC医療通訳心得10 か条を後の実践にどこまで生かせたか、現場実践に不安はなかったかと、自分自身、折に触れて考えてきました。

11 月 16 日(土)の 2018年度登録者フォローアップ研修では、3言語9 人の方にそれぞれの 1年間を振り返っていただきました。医療通訳心得10 か条を踏まえて、１年目の通訳活動の感想や課題、質問を通して意見交換を行い、皆さんの地道な努力に感心しました。

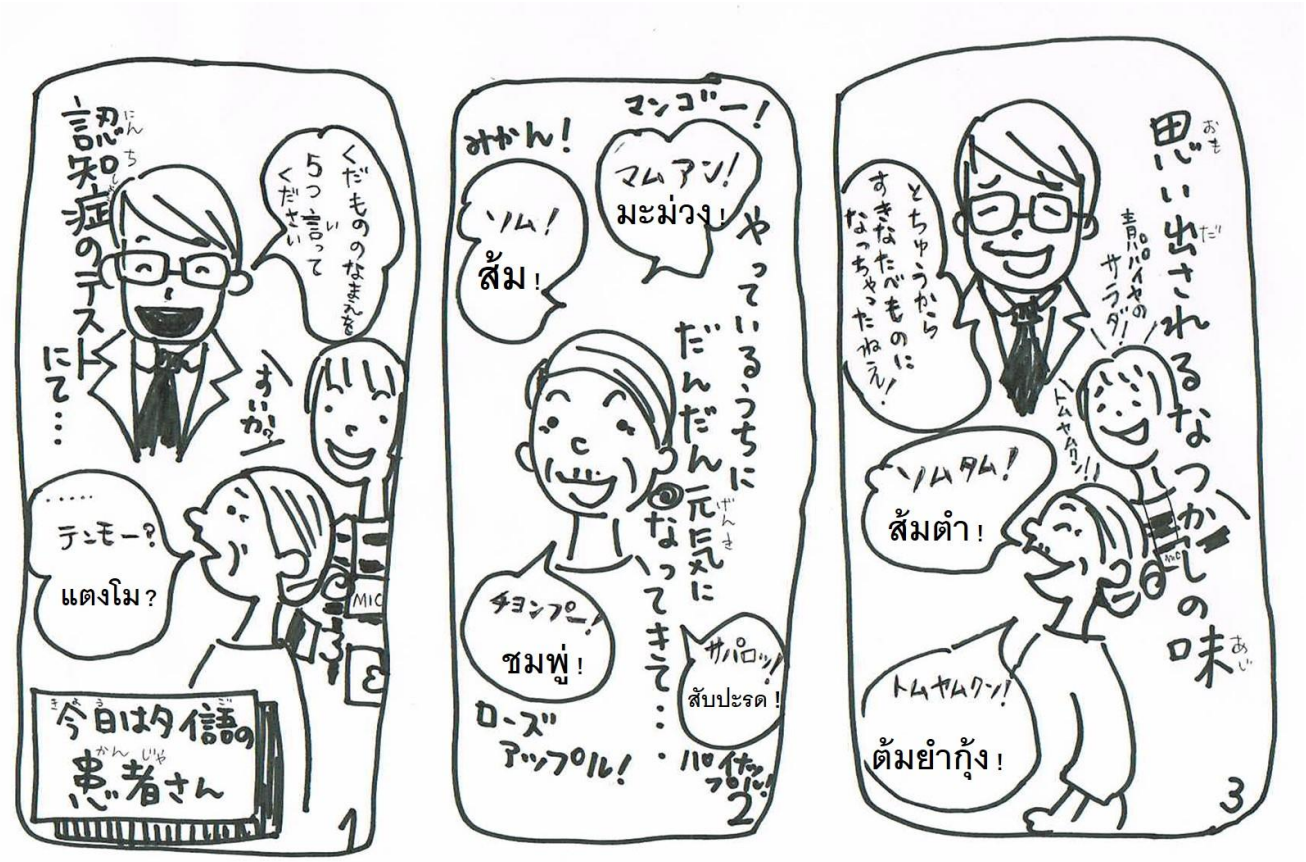
現場における状況判断や対応については、自己研鑽により知識や経験の蓄積ができます。一方、非言語的な要素の通訳技術習得については、今回のような機会が有効だと思いました。私にとって原点復帰のような時間でもありました。

登録言語13 という MIC の強みを生かして、言語の垣根を越え、新任者だけではなく現任者もグループワークを通じて切磋琢磨し、自分を振り返る機会を持つことは大切だと考えております。

MIC かながわ理事・中国語通訳　佐藤ペティー

MICちゃん13　「認知症ケア 回想法」

「長く日本に住んでいると母語を忘れてしまう」と言っている人も、認知症には新しい記憶から失われて過去の記憶だけが残るという特徴があるので、こういうことも・・・。



ある医療通訳スタッフの日記 Vol.16

医療通訳は、患者さんと医療者の間に存在することばの壁をなくすためにお手伝いをしています。命にかかわる通訳をすることも多く、とてもたいへんですが、皆、やりがいを感じて活動しています。どのような活動なのか、医療通訳スタッフからのエピソードを通してご紹介しましょう。

2007年度登録　Yさん

産婦人科の妊婦健診で呼ばれたある日のこと。事前情報は「胎児の脳室拡大」でした。検査結果の説明ということで入室すると、医師がパソコンの前に座っていたのですが、すでに何とも重い雰囲気が漂っていました。

画像を見ながらの説明は「脳室拡大。脳内には脳室と呼ばれる空間がありますが、そこが拡大して大脳が押されて薄くなっています」ということでした。「脳が薄くなっている」とはどのような状態なのかよく分からなかったので、医師に説明を求めました。画像で医師が示した部分は確かに層のように薄くなっており、通常ならそこは大脳として塊に見えるところでした。

医師は続けて「こうなるとこの赤ちゃんは生まれてきたとしてもおそらくは喋ることも歩くこともできないでしょう」と言いました。しばらく沈黙が続き、患者さんが「それは何%くらいか」と質問しました。この質問に医師は「うーん」と言ったなり、止まってしまいました。かなり長時間（と私には感じられた）逡巡された後、絞り出すように「100%」と答えました。日頃、医師は曖昧な表現を多用して明確な表現を避ける傾向が強い、との印象を得ていた私にとって、これは驚きでした。同時にその熟考の長さにも、思いを馳せることにもなりました。

医師としてはっきりと告げずにある方向性を示されていることは明らかでしたが、それをどうやって患者さんに伝えたらよいのか？　日本人ならああ、と了解するはずのところを、果たして日本語を母語としない外国人がどこまで察することができたのか？　私としては心が揺れ動きました。医師の意向がすべてではありませんが、医師の考えを伝えることは必要です。

ここで患者さんが「処置することができるのか？」と聞きましたので、ある意味私としては救われたわけです。医師は、週数的には可能であるが当院ではできない旨を伝え、同時に他院を個人的に紹介すると言って、連絡先を患者さんに渡しました。

この患者さんがその後どうされたのか知る由もありませんが、このような選択には個々人の育った環境や生育歴、宗教などが深く関わっており、結論に至るまでのその心の葛藤や絶望、苦しみを想像すると胸が詰まります。

一方、無宗教の人が多い日本人には計り知れない心の動き方を見せる外国人がいることも事実で、思いもかけない選択をする可能性もありました。患者さんの人生そのものに、一瞬ですが、深く関わる経験とその蓄積は、私の人生に何等かのプラスの影響をもたらし、人間としての成長に繋がると感じています。この辛くもあり、喜びもあり、また深くもある医療通訳というミッション、可能な限り続けて行きたいな、と思っています。

MICかながわは Twitter や Facebook で情報を発信しています。

Twitter のアカウント　@MIC_Kanagawa

Facebookページ　www.facebook.com/Mickanagawa

Twitter や Facebook にアカウントをお持ちの方は、MICかながわの活動や情報が、より多くの方に伝わるようご協力をお願いします。

● 活動報告 ●

10 月 5 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 3 日目
10 月 6 日(日)　群馬県外国人活躍推進課「医療通訳ボランティア養成講座」
　　講師派遣：岩本弥生理事・Co.・ポルトガル語通訳
10 月 9 日(水)　長野県佐久市健康づくり推進課　ジャパンブランド「健康長寿」推進事業 来訪打合せ
10 月 10 日(木)　第 2 回一般通訳協力者研修
10 月 11 日(金)　北里大学看護学部生「統合看護実習」研修対応：飯島事務局長、内藤事務局・Co.・
　　タイ語通訳、ネーンさん（タイ人、実習協力者）
10 月 11 日(金)　神奈川県立国際言語文化アカデミア「生活支援と日本語」講座「医療通訳と外国人の健康」
　　講師派遣：草間理事・Co.・中国語通訳
10 月 19 日(土)　医療通訳ボランティア養成研修第 4 日目
10 月 20 日(日)　カトリック藤沢教会バザー参加
10 月 21 日(月)　MIC かながわ理事会
10 月 24 日(木)　北里大学看護学部生「統合看護実習」研修対応：松野理事長、島崎中国語通訳、
　　バルガス事務局、飯島事務局長、内藤事務局・Co.・タイ語通訳
10 月 25 日(金)　コーディネーター会議
11 月 3 日(日)　外国人無料健康相談会　於:カトリック藤沢教会(藤沢市)
11 月 6 日(水)　新任医療通訳スタッフオリエンテーション
11 月 12 日(火)　第 1 回外国籍県民支援人材育成研修（教員向け）
11 月 15 日(金)　早稲田大学学生調査来訪　対応：田中 Co.・英語通訳
11 月 16 日(土)　医療通訳登録 1 年後フォローアップ研修
11 月 16 日(土)　第 2 回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修
11 月 18 日(月)　MIC かながわ理事会
11 月 22 日(金)　コーディネーター会議
11 月 23 日(土)　厚生労働省感染症通訳研究事業「エイズ結核通訳研修」第 1 部
11 月 24 日(日)　厚生労働省感染症通訳研究事業「エイズ結核通訳研修」第 2 部
11 月 24 日(日)　第 53 回社会貢献者表彰受賞　受賞者懇談会　出席：松野理事長、岩元副理事長
11 月 25 日(月)　第 53 回社会貢献者表彰受賞　表彰式典　出席：松野理事長、岩元副理事長
12 月 1 日(日)　長野県佐久市健康づくり推進課ジャパンブランド「健康長寿」推進事業
　　『タイ語通訳養成講座』　講師派遣：荒井タイ語通訳
12 月 5 日(木)　信愛塾「在日外国人とともに生きる社会へ向け、地域の現場を活かした研究会」
　　講師派遣：佐藤理事・中国語通訳、森田事務局スタッフ
12 月 7 日(土)　『第 1 回希少言語コミュニティ通訳養成講座』
　　講師派遣：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳
12 月 8 日(日)　長野県佐久市健康づくり推進課ジャパンブランド「健康長寿」推進事業
　　『タイ語通訳養成講座』　講師派遣：福島タイ語通訳
12 月 11 日(水)　早稲田大学院院生調査来訪　対応：内藤事務局・Co.・タイ語通訳
12 月 13 日(金)　MIC かながわ理事会
12 月 16 日(月)　神奈川県生活保護専門通訳研修
12 月 20 日(金)　コーディネーター会議

● 活動予定 ●

1 月 10 日(金)・11 日(土)・17 日(金)
　　岡山県国際交流協会「多文化共生コミュニティサポーター研修会」
　　講師派遣：岩本理事・Co. ・ポルトガル語通訳
1 月 18 日(土)　第 2 回希少言語コミュニティ通訳養成講座
　　講師派遣：岩本理事・Co. ・ポルトガル語通訳
1 月 31 日(金)　第 2 回コーディネーター研修
2 月 20 日(木)　東京都福祉保健局中国帰国者対策担当「自立支援通訳員等に対する医療通訳研修会」
　　講師派遣：沢田理事、佐藤理事・中国語通訳、三木中国語通訳
2 月 21 日(金)　信愛塾「成人教育講座　医療通訳」　講師派遣：佐藤理事・中国語通訳
2 月 28 日(金)　レガートおおた　医療場面における通訳対応　講師派遣：岩元副理事長・Co. ・英語通訳
3 月 4 日(水)　第 2 回外国籍県民支援者研修（保健師向け）
3 月 7 日(土)　山梨県国際交流協会、山梨県立大学看護学部「やまなし医療通訳研究会」
　　「医療通訳セミナー」　講師派遣：三木中国語通訳
3 月 12 日(木)　第 2 回かながわ一般通訳協力者研修

MICのイベント（報告）

●外国人無料健康相談会

日時：11 月 3 日(日・祝)　13：30～16：30
場所：カトリック藤沢教会（藤沢市）
内容：胸部レントゲン、身体測定、血圧測定、尿検査、医師による問診
通訳派遣：英語 1 人、タガログ語 1 人、ベトナム語 1 人、スペイン語（電話待機）1 人
受診者：15 人（7 か国）

●2019年度医療通訳ボランティア養成研修

今年度は中国語、英語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語の募集を行い、118 人の応募がありました。書類・面接の事前選考を経て、9 月から 10 月にかけての 4 日間の養成研修には 34 人が参加。最終日10 月 19 日（土）の選考を経て、5言語 24 人が登録されました。

●新任医療通訳スタッフ オリエンテーション

日時：11 月 6 日(水)　10：00～12：00
場所：かながわ県民センター

今年度登録された新任医療通訳スタッフに委嘱状が交付されました。交付式ではベトナム語通訳が代表して MIC かながわの早川副理事長から委嘱状を受け取りました。続いて通訳派遣の仕組み、台風・大雪など災害時の派遣のルール、協定医療機関の概要、コーディネーター業務、事務手続きなどについてオリエンテーションを行い、最後に３つのグループに分かれて通訳コーディネーターと懇談しました。

コーディネーターブースの業務について、スライドショーをもとに新任医療通訳スタッフに説明

●第 1 回外国籍県民支援人材育成事業(教員向け)　＜多言語支援センター研修＞

日時：11 月 12 日(火)　14：30～16：50　　場所：かながわ県民センター

テーマ：(1) じょうずに通訳を使うために

講師：MIC かながわ理事・Co.・ポルトガル語通訳　岩本弥生氏

(2) 在留資格の基礎知識　～外国籍生徒の進路に影響がある在留資格を中心に～

講師：行政書士　岩崎裕子氏

参加者：22 人

前半は、多言語支援センターかながわが神奈川県から受託して県内の公的機関に通訳ボランティアを派遣している一般通訳事業に関連した講義でした。一般通訳事業では、去年387件の派遣実績がありましたが、そのうち181件が県立高校、86件が特別支援学校への派遣でした。

この講座を前に、学校での通訳に行ったことのある通訳登録者に困ったこと、良かったことについてアンケートをとりました。それを元に、講師が、通訳をよりよく利用するための工夫などを説明しました。例えば、入学説明会などの集団での通訳場面では、同時通訳は難しく、周りの方への遠慮もあるので、全体会の後に別に時間を設けてもらったり、事前に情報をもらったりすることでより適切な通訳ができることを説明しました。先生方からは、事前の打ち合わせや相談をしてよいのだということがわかった、という声もあり、MIC かながわとしても学校への説明が不足していたと感じました。

じょうずに通訳を使うために

在留資格の基礎知識

後半は、在留資格の基礎知識として、外国籍生徒の進路に影響があるものを中心に、講義をお願いしました。外国につながる子どもたちがもっている在留資格の中でも、特に「家族滞在」の在留資格で在住している場合は週28時間までしか働けず、正社員になるのは困難です。そのために、専門学校を選ぶ場合も慎重に検討しなければなりません。早目の対応の必要性について、フローチャートや漫画を使ったわかりやすい説明がありました。

●第2回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修

日時：11月16日(土)　13：25～16：50　　場所：ウィリング横浜

テーマ：

(1)　膠原病について　横浜市大附属病院　血液・免疫・感染症内科　医師　岸本大河氏

(2)　感染症について　MICかながわ理事・港町診療所所長・医師　沢田貴志氏

参加者：148人

自己免疫疾患と膠原病はどのように違うのでしょうか。膠原病は自己免疫疾患のなかでも全身性の免疫疾患の総称で、その中には、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、ベーチェット病など、医療通訳スタッフを派遣することが多い病気の名前がありました。

特に関節リウマチは100人から200人に1人が発病すると言われており、女性は男性の4倍かかる率が高いそうです。当日の参加者は150名ですから、その部屋の中でひとりがかかる病気だと思うと、珍しい病気ではないということになるでしょう。

免疫系の病気はほとんど原因がわかっていないそうです。当たり前のことですが、早期発見、定期受診、無理をしない生活をしてうまく付き合っていく病気だとのことでした。

感染症は、2年に一度、最新の情報を医療通訳スタッフに届けるために採り上げているテーマです。今回は、結核やエイズについての基本的な知識、最新の治療法に加えて、2011年から増加傾向にある外国人結核患者についての状況説明がありました。昨年度の統計では、全国の結核患者新規登録のうち17%が外国人だったそうです。

結核の治療を確実に行うため、また広がらないようにするために、医療通訳の果たす役割は大きいということを再確認した講義でした。

膠原病について

感染症について

●厚生労働省感染症通訳研究事業「エイズ結核通訳研修」

日時：＜第 1 部＞　11 月 23 日(土・祝)10：00～16：30
　　＜第 2 部＞　11 月 24 日(日)10：00～15：30
会 場：東京八重洲ホール
内容：　　通訳技術の基礎

＜第 1 部＞

【医療通訳に必要な結核・エイズの基礎知識】

1. 「HIV検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究」紹介
   （なぜ結核・エイズの通訳が重要か）
   講師：杏林大学総合政策学部教授　北島勉先生、港町診療所所長　沢田貴志先生
2. 結核の基礎知識　講師：港町診療所所長　沢田貴志先生
3. 保健所業務とエイズ・結核の支援　講師：杏林大学保健学部教授　大木幸子先生
4. エイズの基礎知識　講師：港町診療所所長　沢田貴志先生
5. HIV とセクシュアリティーについて　講師：文化人類学者　砂川秀樹先生
6. 通訳技術の基礎　講師：杏林大学外国語学部教授　宮首弘子先生

＜第 2 部＞

【講義】　1. 医療通訳の心得　講師：港町診療所所長　沢田貴志先生
　　2. 通訳技術　講師：杏林大学外国語学部教授　宮首弘子先生

【実技演習（言語グループ別ロールプレイ)】　中国語、フィリピン語、ベトナム語

参加者：第 1 部　40 人　　第 2 部　21 人（中国語 15、フィリピン語 2、ベトナム語４）

2017年度から毎年東京駅近くの会場で開催し、３回目を迎えました。今回も、岩手、宮城、山梨、千葉、埼玉などから８言語の参加者が集まり、結核やエイズの通訳に必要な知識を学びました。

●第 1 回希少言語コミュニティー通訳養成講座　＜多言語支援センター研修＞

日時：12 月 7 日(土)10：00～12：40
会 場：かながわ県民センター
テーマ：税金に関する通訳
　(1) 税金　講師：税理士　大口保則氏
　(2) 通訳技術　講師：MIC かながわ理事・Co.・ポルトガル語通訳　岩本弥生氏
　(3) 通訳ロールプレイ練習
　　ロールプレイ　母語話者　タガログ語　鈴木ミリアム氏／ベトナム語　ファム･ミーリン氏／タイ語　荒井アオイ氏

参加者：4 人（タガログ語 1、ベトナム語 2、タイ語 1）

この講座は、外国出身で日本語の日常会話ができ、家族や友だちに頼まれて役所や病院に通訳に行くことがある方を対象に、地域での通訳活動をスムーズにおこなえるよう、技術や知識を身につけていただくために毎年行っています。

税金については、所得税、住民税、確定申告などについての説明があり、参加者からたくさんの質問が出ました。ロールプレイは役所の住民税の窓口での相談場面での通訳を行いました。

税金

●神奈川県受託事業生活保護専門通訳研修

日時：12 月 16 日(月)10：00～12：00
会 場：かながわ県民センター
内容：(1)通訳に求められる生活保護制度の基礎知識
講師：神奈川県こどもみらい局 福祉部生活援護課生活保護グループ副主幹　磯崎貴史氏
(2)生活保護の通訳をする際に注意すべきこと
講師：MIC かながわ中国語通訳　三木紅虹氏
参加者：25 人（8 言語）

神奈川県生活援護課の磯崎氏による生活保護制度の基礎についての説明に続き、役所の職員が生活保護に対応する場面を再現したビデオを見て、現場の様子を学びました。

また、生活保護担当部署で勤務経験がある三木氏が、生活保護の通訳をする際の留意点を伝え、実践的なアドバイスをしました。

生活保護の通訳をする際に注意すべきこと

言語別自主勉強会情報（報告）　2019 年 10 月～12 月開催分

言語グループ	日　時	会　場	内　容
中国語	11 月 2 日(土) 13：30～16：30	かながわ県民センター	循環器の仕組みと働き、基本的な疾病について／ロールプレイ
スペイン語	10 月 26 日(土) 13：30～15：30	かながわ県民センター	通訳トレーニング（保険等の制度）、事例検討
ポルトガル語	12 月 1 日(土) 14：00～17：00	かながわ県民センター	ロールプレイ（メンバーの学びたい内容を題材に通訳の練習をし、表現方法を共有する）／事例検討
韓国・朝鮮語	10 月 4 日(金) 13：00～15：00	会員個人事務所	脳血管疾患・その予防のための食事／問診票を記入するときに必要な用語
	11 月 22 日(金) 13：00～16：00	会員個人事務所	結核について／結核用語
英語	11 月 17 日(日) 13：00～16：30	横浜市西区福祉保健活動拠点フクシア	グループワーク・情報交換／産婦人科・出生前診断
フランス語	11 月 21 日(金) 13：00～15：00	かながわ県民センター	産婦人科・帝王切開手術

●第 2 回希少言語コミュニティー通訳養成講座　＜多言語支援センター研修＞

日時：2020 年 1 月 18 日(土)10：00～12：40
テーマ：医療通訳
（1）医療通訳の基礎
（2）通訳ロールプレイ練習　タガログ語、ベトナム語、タイ語

MICのイベント(案内)

●第 2 回コーディネーター研修

日時：2020 年 1 月 31 日(金)　18：00～20：30
内容：神奈川県医療通訳派遣システム事業協定医療機関医療通訳窓口担当者と
　　MIC かながわ通訳コーディネーターとの意見交換会

●第 3 回医療通訳スタッフ･コーディネーター現任者研修

日時：2020 年 2 月 15 日(土)　13：20～16：50
テーマ：(1) 膠原病について
　　(2) グループディスカッション　～通訳活動上の基本事項～

●第 2 回外国籍県民支援者研修(保健師向け)＜多言語支援センター研修＞

日時：2020 年 3 月 4 日(水)　18：00～20：00
テーマ：感染症患者への対応

●第 2 回一般通訳協力者研修

日時：2020 年 3 月 12 日(木)　午後
テーマ：養護学校での通訳

●外国人無料健康相談会

日時：2020 年 3 月予定
場所：カトリック末吉町教会
　　（横浜市中区）
内容：胸部レントゲン、身体測定、
血圧測定、尿検査、医師による問診

事務局からのお知らせとお願い

～経費節減にご協力のお願い～

今後、MIC からのお知らせはＥメールのみでかまわないという方で、その旨まだご連絡いただいていない方は、お手数ですが事務局までご一報願います。

～書き損じハガキを寄付してください～

もし、ご家庭に書き損じ郵便ハガキや未使用切手が眠っていましたら、ご寄付をお願いします。事務所にお送りいただくか、研修等でお会いできる機会があれば事務局スタッフにお渡しください。事務局での業務に利用させていただきます。ご協力よろしくお願いします。

手芸部だより

今年も残り少なくなりました。秋には豪雨と台風に悩まされましたね。
皆さまのところでは被害はありませんでしたか。被災された方には、心よりお見舞い申し上げます。

MIC手芸部は、10 月にはカトリック藤沢教会のバザー、12 月には同教会のミニバザーに出店させていただきました。10 月のバザーは、例年人気のタイ王国のエビせん、スノウ・ボール（クッキー）に加えて、アーモンド・フロランタンも登場し、売り娘さんたちの努力もあって、すぐに売り切れました。買い逃した方、来年は是非お早めにお出かけください。余談ですが、「タイ王国のエビせん」という名称にしたのは、「タイのエビせん」では「鯛と海老が入ったお煎餅」と思う方がいたからです。

また、会員の皆様から提供していただいた品々、手作りのクリスマス飾りなども、次々と売れました。1点200円3点500円のコーナーも好評でしたし、小さいお子さんの「お買い物体験」にお付き合いするのも楽しい経験でした。売上高と MIC への寄付金額は別途ご報告した通りです。

12 月のミニバザーは冬晴れの好天に恵まれ、松ぼっくりのツリーや毛糸編みのツリー、リースなど手作りのクリスマス飾りを中心に販売しました。プレゼント用にと買ってくださる方も多く、午前のみの2時間ほどの開催時間でしたが、10,100 円の売り上げとなりました。売り上げは全額MIC かながわに寄付いたしました。

いろいろなお品を提供してくださる MIC会員の皆さま、ご提供いただいた品々を教会に搬入するために、毎年、車を出してくださる藤沢市在住の会員T さん、クッキー作りを指導してくださる MIC の”パティシエ”通訳の O さん、また、エビせんをバザー当日の朝、油で揚げて、教会に届けてくださる通訳の N さんご夫妻、売り娘として販売を手伝ってくださる方、そしてもちろん、バザーでお買い上げくださる皆さま、みんなが ONE TEAM になって、今年も無事、バザーを終えることができました。お力添えくださった皆様にあらためてお礼を申し上げます。

一層の寒さに向かい、お体に気をつけて、どうぞお元気に良いお年をお迎えください。

手芸部一同（y.t.記）

手芸部の皆さま
バザーに協力してくださる皆さま

本当にありがとうございます！

MICかながわ

ことばで支える　いのちとくらし

MIC かながわは認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。
寄付は所得税の寄付金控除、または税額控除、いずれか有利な方の適用を受けることができます。
また、神奈川県にお住まいの方は個人県民税の寄付金控除の適用も受けることができます。
会員はいつでも募集しています。ぜひ会員になって私たちの活動を支えてください。

2019年度の会費をお願いします。
会費は 4 月から翌年3 月までの年度会費です。

●新規会員・継続会員の方
正会員：6,000 円
個人賛助会員： 3,000 円
団体賛助会員： 1 口 10,000 円
（賛助会費は寄付扱いとなります）

【会費振込先】
みずほ銀行　横浜駅前支店
普通3819349
口座名義：特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ

横浜銀行　横浜駅前支店
普通 3417718
口座名義：特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ

ゆうちょ銀行
口座：00270−2−55771
口座名称：MIC かながわ

編集後記

◆認知症のケアでは、回想法という昔のことを思い出して元気になってもらうセラピーがあります。今回の mic ちゃんは、それを意識してみました。神奈川には、外国人の方もそうした時間を持てるデイサービスなんかもあるようです。高齢系のソーシャルワーカーにもぜひ知ってほしいなあ、なんて思う今日この頃です。（M.K）

◆我が家のプリンターがどうも動きが怪しくなってきました。年賀状印刷を前に買い替え検討会議が行われ、あーでもない、こーでもない、最終的には置くスペースのサイズが問題に。
そう！何を買うにしても大事なのはサイズです。
（N.M）

Multi-language Information Center

MICかながわ
特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ
発行人　松野勝民
編集・発行　MIC かながわ事務局

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
かながわ県民センター内

Tel：045−314-3368
Fax：045−342-7918
e-mail：mickanagawa@network.email.ne.jp
URL：http://mickanagawa.web.fc2.com/